

カリキュラム

機構施設名： 和歌山職業能力開発促進センター
実施機関名：

(A)生産管理	管理手法	製造分野におけるDX推進
---------	------	---------------------

コースのねらい	生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革(DX)を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。
---------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)	
講義内容	1	製造業におけるDXの理解	(1)DXとは ・経済産業省の定義 ・デジタイゼーション、デジタルイゼーション ・変化と変革の違い ・DX推進の背景 (2)製造業におけるDXの視点 ・DXの4階層 ・スマートファクトリー ・スマートプロダクト ・スマートサービス ・自社DXの大枠の目標をどこにおくべきか？(個人ワーク) (3)DXの進捗状況 ・自社の現状をセルフチェック ・理由や背景の洗い出し(個人ワーク&グループワーク)	1.0
	2	DX実現事例	(1)DX実現例 ・スマートファクトリーの例 ・スマートプロダクトの例 ・スマートサービスの例 (2)製造現場で活用されるデジタル技術 ・IoT、クラウド ・RPA、AI ・画像処理 ・デジタルツイン (3)DXを実現するための人材 ・DX推進人材の特徴 ・DX人材の特徴 ・「自分ごと化」への道(グループワーク)	1.0
	3	DX推進の目標設定と解決策	(1)課題の洗い出し ・DX対象の工程フロー作成 ・ムリ、ムダ、ムラ、属人化していることを記述 ・または自分が困っていることを記述 ・スマートプロダクト希望者は、製品へ追加可能な情報や機能について記述。 ・スマートサービス希望者は、顧客との接点や継続的価値提供を記述。 (個人ワーク&グループワーク) (2)解決策の検討 ・洗い出した課題各々について根本原因(構造的な原因)を記述する ・根本原因をDXの視点から見た予兆保全、情報共有、技能伝承、可視化などの共通要素に分類し整理する (個人ワーク&グループワーク) (3)DX化の検討 ・共通要素ごとにデジタルで“どのように変えるか”の方向性を立てる ・洗い出した課題の可能性を検討する (個人ワーク&グループワーク)	3.0
	4	DX推進の計画と実行	(1)計画を進める際の心構え ・小さく進める。 ・やりやすいものから進める ・アジャイルに進める (2)計画作成 ・洗い出した課題の優先順位を設定 ・KPIの設定 ・担当・時期・評価方法を定める (個人&グループワーク) (3)社内外との連携 ・社外との連携時の重要点 ・社内人材の巻き込み方(グループワーク)	1.0
合計時間			6.0	

カリキュラム作成のポイント
自社の在り様で、DXの適切な目標は変わってくることを「DXの4階層」でお話します。より現実的な着地点を探すためである。また、自身の仕事の課題の見つけ方や課題のDX化を通して解決方法を持ち帰っていただくために基本項目3に大きく時間を割いている。受講者同士で話し合うことも含んでいるので多様な視点を持てるようになるだろう。その分、計画策定は1つの課題に絞って行ってもらうことになる。(12Hコースの場合、基本項目3が7H、基本項目4が3Hとなり、スマートプロダクトとスマートサービスについても考えていただくことになる)

訓練に使用する機器等	備考
●機器・ソフトウェア(受講者用) ・筆記用具	●機器・ソフトウェア(講師用・その他) ・講師用PC(持参) ・ホワイトボード、マーカー(赤・黒)、プロジェクタ、スクリーン ・その他備品(必要時は弊社準備)
●使用するテキスト ・自作テキスト(配布資料含む)	●その他
利用専業主に用意を求める機器等	備考
・ホワイトボード、マーカー(赤・黒)、プロジェクタ、スクリーン	使用設備：プロジェクター(HDMI端子およびUSB-Type A端子対応)、スクリーン、ホワイトボード